



- ・進んで学ぶ生徒(知)
- ・心豊かな生徒(徳)
- ・たくましい生徒(体)

『皇天親無く 惟徳を是輔く』 出典：書経より

ゴールデンウィークにTBSの日曜劇場『VIVANT』(ヴィヴァンの意味：生きている、命のある)と言うドラマを観ました。豪華なキャストで、思わず続けて観てしまいました。私には、すごく面白く感じましたが、そのドラマの最後のシーンで俳優の堺雅人さんのセリフの中に、このようなセリフがあったのです。(ドラマは、時間の関係で解説しないので、ごめんなさい。興味ある人は、観てみてください。)



『^{こうてんしんなく}皇天親無く ^{ただとく これたす}惟徳を是輔く』です。私は、一度で良く理解できなかつたので何回かもどして聞きなおして調べました。『徳』とは、身に着けた品性。社会的に価値ある性質、望ましい態度、ありがたいと思う態度などで。そこで、このように解しました。^{こうてん}皇天は、天の敬称であり、「大いなる天は、特別に誰とだけ親しくなるということはしない。ただ徳を行うものを援助するだけである」という内容でした。要約すると「徳のあるものは、自然と救われる」といった意味なのかなと思います。

さて、前置きが長くなりました。ここで71日間の1学期が終了し、42日間の夏休みが始まります。1学期のカウントには、祝祭日と週休日が入っていないので、このように並べると意外と夏休みに日数があるように感じませんか。

私は、この誰にも等しくあるこの時間には、多くの可能性がかくれていると思っています。その一番目は、充実感です。夏休みは、単純な言い方をすれば、自らの確固たる意志で、しっかりと休養を取り、休むと決め実感できれば、夏休みを意識して何もしなかつたのですから、終わった後も充実感があるはず。また3年生や1・2年生などでも、多くの人がいると思いますが、時間を受験勉強や補習として使い、不足した力をつけるため、この夏休みの時間で実力を上げるチャンスとばかりに取り組み、実力があげられる実感がつかめれば、これは、しめたものです。これも充実感です。しかし、きっとどちらもそう簡単には、いかないと思います。何もしないことは、怖くてできませんし、保護者も簡単には、許さないでしょう。勉強にしても、そもそもやりたくて仕方ないとか、力をつけたいという、しっかりとした価値観があれば日頃から取り組んでいるはずですから、元々取り組む力があるので、夏休みでも続けられるはず。

では、どうするか。それは、具体的な目標と計画を立てて行動する。「ただやる。」これ以外に方法は、ないと思います。いずれにしろ実行することが大切ですが、その目標にどんな意味や価値があるかが非常に大切だと考えます。自分の中の価値観です。保護者や友達の価値観ではありません。自分自身の価値観です。この夏休みは、小学生のころと違って、スケジュールがいっぱいです。計画を立てて実行してみると意外と時間がないのです。最初に比べた1学期の授業数と夏休みの



日数を見比べて感じた時ほど長くないのが、わかります。私も、様々なことを反省もしますが、反省をしても一歩も踏み出さなければ、その反省を生んだ経験がもつたないと思っています。1学期に多くの取り組みを通じ、クラスや学年・部活動とたくさんの生徒の皆さんが努力したと思います。今日は、勉強を例にお話ししましたが、

「人生に大切なものほど目に見えない。」と言います。この話の最初にした『徳』の話ではありませんが、『社会的に価値ある性質、望ましい態度、ありがたいと思う態度』など、どれも見えないものばかりです。「ありがとう。ごめんなさい。おはよう。ただいま。おかえり。」など人を認め、感謝することから出る言葉を大切に使い、自分の心の成長と意志の力を育ててください。そして、その力を持つことが、学力をつけることであったり、事故にあわずに過ごせたり、災いに合わない『小さな奇跡』につながると思うのです。

又、新たなる皆さんと42日後に皆で集いお会いしましょう。そして2学期の多くの行事や毎日の当たり前を積み重ね充実した日々を過ごす準備をしてお会いしましょう。 1学期 終業式 式辞より

【提案1】※個人情報のわからない服装をする！！

先日、民生・児童委員の方と話し合いの機会をいただきました。その時に地域の様子をお聞きすると、公園で夜遅くまで楽しそうに寄り添っているカップル、塾帰りの遅い時間に帰る中学生など、いくつかの話題が出ました。その中で、出たことで一つ提案します。



それは、体育着での夜の外出です。私も毎日校内で見ているので、違和感なく見ていましたし、市内の中学生を見ても多くの生徒が塾に行く際などジャージや体育着を着ているのを見ます。改めて考えると、これは、心配だなと感じたのです。学校は、現在、暑さ対策のために体育着での登下校を可にしています。苦肉の策ですが、できればリュックやかばんなどで名前を隠してほしいくらいです。これが夜間の外出となると少し話が変わって、危険度がさらに上がります。夜間の事件や事故が市内でも報告されているのです。深夜徘徊は、補導対象ですが、それ以外に、強引に行動する不審者の遭遇など更に危険度が増します。ジャージや体育着には、個人情報が満載です。学校名、個人名など一瞬で伝わり、これにSNSを見て個人を探している大人がいたりすると事件に巻きこまれます。学校は、警察との連携も図っていますが、市内でも、その中で悪い大人による暴行被害、性被害、窃盗、誘拐などが報告されます。被害にあってからでは、おそいのです。もう一度、考えてみては、どうでしょう。提案です。体育着の着用に、なにか理由があるなら工夫し、個人情報のわからないようにしたり、違う服装にしては、どうでしょうか。心配になりました。夏休みに安全に過ごしてもらうために提案しました。

校長見聞録

自分が小さかった頃の夏休みは、本当に楽しかった。友達と野球をしたり、サッカーをしたり、好きなことを思いっきりした。自分の家は、商売をしていて盆暮れは、なく両親は、働いていたし、遊んでくれる家族もいない。家族旅行などまったくない。外出と言えば、友達と電車に乗り、ザリガニを取りに行ったり、祖父の家が近かったので、祖父と一緒に自転車で現在の高島平団地が建設される前の川岸に行き、ドジョウやのびるなど採りに連れて行ってもらったのは、今でも覚えている。東京育ちだが友達や自然と遊ぶのがすべてだった。私は、その様な暮らしぶりだったので、小さいころから包丁がある程度使えた。自分の好きな果物、柿やリンゴをむくためだ。我が家は、自分が食べたければ自分でやるという家風だったようだ。当然、夏のスイカは、大好きだった。スイカを丸ごと一つ切らせてもらうのは、満足感があった。トマトは、家にあった井戸に冷やしたものを丸ごと食べるのがおいしかった。麦茶をサイダーの瓶に入れ、お砂糖を入れて冷やし飲むのが最高においしかった。ちなみに初めてコーラを飲んだのは、小学校4年生ぐらいだったと思う。夏は、午後に良く夕立があった。そのあとに出る虹を見て、どこが一番下なのかその端を見たくて遠くまで行ったが、いつまでも近づけずあきらめた。



今の子どもたちは、幸せなのか？！ もうこんな夏休みは、奇跡なのか。

ああ夏休み！！

